

BARCELONA • 2013 GLOBAL AGEING & VISION ADVOCACY SUMMIT

概要

グローバル・エイジング・ アンド・ビジョン・ アドボカシー・サミット

2013年4月17~18日 | バルセロナ



大切なのはパートナーシップ

グローバル・エイジング・アンド・ビジョン・アドボカシー・サミット（高齢者および視力障害者の支援に向けた世界サミット）は、世界の12カ国から視力および高齢者福祉の分野における学識経験者および支援団体のリーダーたちを一堂に集めています。同サミットは、21世紀を新たな側面から再検討、再形成および再考察し、加齢に伴う視力喪失は決して当たり前の現象ではなく、また避けられないものでもないという認識を新たにすることを目的としています。

同分野では初めてとなる集会において、代表者たちは高齢化と目の健康の併存関係をより深く理解するため、協力一致して議題を調整しました。新たな知識と理解を深めることにより、同サミットは高齢化と目の健康に関する議題を公衆衛生および倫理的義務のみならず、経済および財政的な緊急性の視点からも見直し、世界的な支援と認識の向上に向けた道を拓きました。

グローバル・エイジング・アンド・ビジョン・アドボカシー・サミット

概要

視力の喪失と高齢化がもたらす課題とコスト

現在、世界で約2億8500万人が何らかの視力障害を持ち、そのうち3900万人以上は失明していることが認められています。このように、視力の喪失は世界的にも重大な障害の原因となっていますが、信じ難いことには、こうした障害の80%は予防が可能であることが明らかになっています。

視力喪失には様々な原因があり、屈折異常や白内障などの症状に加えて、黄斑変性症、緑内障、糖尿病性網膜炎などの重大な疾患も含まれています。

多くの眼疾患およびその症状、そして付随する課題のほとんどは高年齢層の間で生じています。こうした視力の障害は、直接的な医療費の増加だけでなく生産性に対する障壁をもたらし、高齢化が進む現代社会における経済成長の機会を妨げる可能性があります。

高齢者の間で最も顕著に見られ、視力の喪失をもたらす場合もある深刻な病気のひとつに、加齢黄斑変性症 (AMD) があります。AMDは世界で3000万人に影響を及ぼし、高所得国における視力障害および失明の主な原因となっています。一方、予防が可能な視力喪失の90%は開発途上国で発生しており、こうした国々では、聴覚障害の2倍に相当する割合で視力障害が見られます。

視力障害は高齢者の孤立や疎外を招き、比較的早期から依存状態または障害者としての生活を強いる場合があります。視力を

喪失した人たちはもちろんですが、身の回りの世話をする家族たちも、常習的な欠勤または無理な出勤による生産力の低下など、職場を含む様々な面において多大な影響を受ける場合があります。こうした介護がもたらす負担は、本人および家族の生活の質、スタイルおよび水準に悪影響を及ぼす可能性があります。

最終的に経済への影響は大きく、視力喪失に伴い発生する間接経費の合計は年間約6500億米ドルに上り、2020年には直接費の合計が2.8兆ドルを上回ると推定されています。

行動の機会

来る西暦2020年、この地球上では60歳以上の人口が10億人を超えると予想されています。この時も、私たちの「高齢化社会」は視力喪失との苦闘を続けているのでしょうか。それとも効果的な政策や革新的な行動により、こうした問題はもはや過去の遺物となっているのでしょうか？

高齢化社会がもたらす将来の課題に取り組むためには、視力喪失による深刻な健康問題や、社会的





および財政的危機を回避するための行動および投資戦略が必要となります。

これまで問題の大きさと世界的にみたその結果の割りには、科学的、社会的また保健サービスの研究は、視力喪失の原因となる病気の治療の費用対効果を定量化するには十分ではありません。しかしながら、限定されるとはいえ、既存データは、効果的な擁護と実証済みのポリシーの基礎を形成し、活動と投資の戦略を策定することが、無活動よりずっと効果的であるということを示しています。

例えば、世界保健機構は、白内障の手術と必要な人に眼鏡を提供することは、盲目の人や視力障害のある人の75%の視力の問題を解決する可能性があり、すべての保健的介入のうちで、最も費用対効果のある二つの課題であると認識しました。

さらに、プライスウォーターハウスクーパース／フレッド・ホロズ財団の調査によると、世界的にみて視力喪失を予防する便益費用比率は2対1、低開発諸国では4対1となっています。

「視力の維持および回復は特に高齢化社会に多大な貢献をもたらします」

WHO事務局長
マーガレット・チャン

サミットの成果： 活動の基盤

サミット中、これらの識別された機会が、世界的なレベルでも、またそれを活用して国内でも優先課題を追求しつつ、参加機関の間での今後の継続的な対話と活動の基礎としての役目を果たす主な3つの基盤が考え出されました。

1. リサーチ

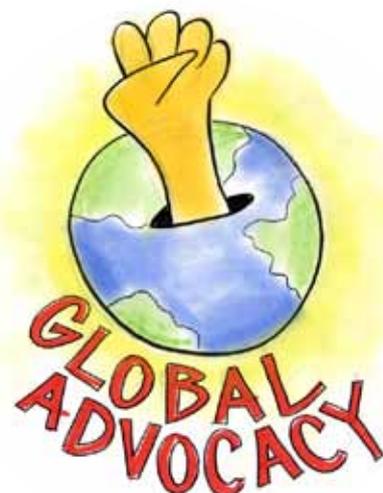
視力と高齢化との連繋を示すデータが最小限しかないため、視力障害および視力喪失のある高齢者人口の増大による社会的、経済的影響をさらに有効に説明できるように、詳しいギャップ分析を行う必要があります。多部門および多くの専門分野にわたる関係者の間でまとめられ、臨床的社会的な研究から経済・市場調査に至る範囲の内容が最も効果的なリサーチとなります。

2. 主要メッセージ

協調的な擁護活動を強化するために、目の健康および高齢化という二つの分野の間で、一本化され一貫性のあるメッセージが共有されなければなりません。国家や地域間の違いを認識しつつ、生涯にわたり目の健康の重要性の認識を高め、リスクに瀕している人々や社会に力を与えることを主眼とする主要メッセージを策定することが重要です。

「一体どうすれば、より健康な視力の普及に貢献できるのでしょうか。さらには、どうすれば高齢者が最大限に自立して生活できる世界の創造に貢献できるのでしょうか … 私は学びたいと思っています」

— イアン・フィリップ教授



3. 世界的な擁護

世界中の様々な国で多数の擁護キャンペーンや組織を通して、現在の世界の保健のテーマに関する視力障害の面で明らかに進歩がみられますが、まだまだ多くの作業が残っています。

高齢化と視力という背景で力強い一本化された力強い主要メッセージと相俟って、証拠に基づいたリサーチが増えれば、世界的な擁護のた

めに堅実な土台と促進のための触媒が提供されることとなります。

すべての世界市民にとって前途有望となる機会を保証しやすくするためには、変化を推進する高齢化と視力の分野の人々のコミットメントとコラボレーションが非常に重要になります。■

当報告書のイラストはセーラ・ヘプナー・ウォールドストーンによるもので、当サミットで交わされた代表者の対話を反映しています。

グローバル・エイジング・アンド・ビジョン・サミットは、バイエル薬品AGの支援により開催されました。



Macular Disease Foundation Australia
(豪州黄斑疾患基金)

Suite 902, Level 9, 447 Kent Street
Sydney NSW 2000
Australia

Tel +61 2 9261 8900

www.mdfoundation.com.au

International Federation on Ageing
(世界高齢者団体連盟)

351 Christie Street
Toronto ON M6G3C3
Canada

Tel +1 416 342 1655

www.ifa-fiv.org



Our focus is your vision

